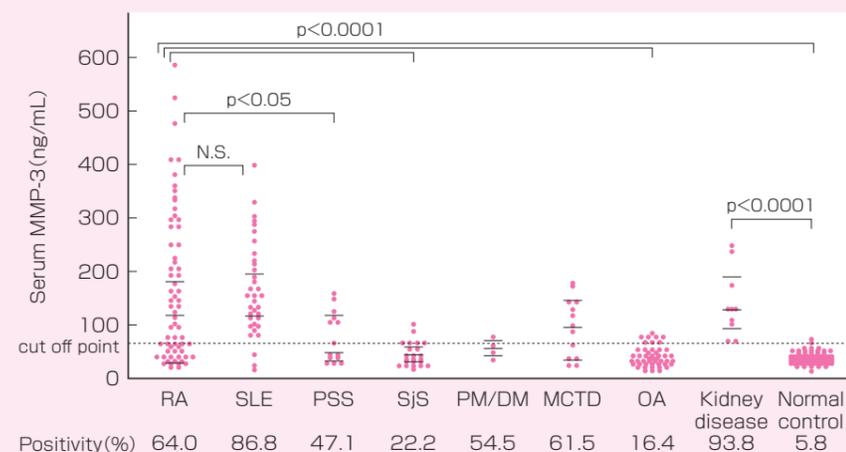


◆ リウマチ性疾患群における血清MMP-3濃度



関節リウマチ(RA)患者では高値を示す例が多く、変形性関節症(OA)やシェーグレン症候群(SjS)に比べて有意に高値となります。MMP-3はRAの病態把握に有用ですが、全身性エリトマトーデス(SLE)など他の膠原病や腎疾患患者、ステロイド投与でも高値を示すため、RAの診断や活動性の評価に用いる場合には注意が必要です。

RA：関節リウマチ、SLE：全身性エリトマトーデス、PSS：全身性硬化症(強皮症)、SjS：シェーグレン症候群
PM/DM：多発性筋炎/皮膚筋炎、MCTD：混合性結合組織病、OA：変形性関節症

〈出典：熊谷 俊一，他：臨床病理，52(10)：836-843，2004.〉

◆ 包装単位・貯蔵方法・有効期間

〈体外診断用医薬品〉

製品名	セット内容	製品コード	貯蔵方法	有効期間	適用機種例
LZテスト‘栄研’MMP-3	R1：60mL×1 R2：20mL×1	G-IZ25	2～10℃	1年間	日立7180、AU680、 BM6050 他
	R1：15mL×2 R2：6mL×2	G-IZ26			
	R1：60mL×1 R2：20mL×1	G-IZ27			TBA120FR 他
	R1：30mL×2 R2：10mL×2	G-IZ28			日立LABOSPECT
	R1：30mL×2 R2：10mL×2	G-IZ29			東芝cシリーズ 他

〈一般品〉

(別売 キャリブレーション)

製品名	包装単位	製品コード	貯蔵方法	有効期間
LZ-MMP-3キャリブレーション‘栄研’	1mL×6 (6段階濃度)	G-IZ75	2～8℃	1年間

(別売 コントロール)

製品名	包装単位	製品コード	貯蔵方法	有効期間
QC-MMP3-L‘栄研’	3mL×2	G-IZ76	2～8℃	1年間
QC-MMP3-H‘栄研’	3mL×2	G-IZ77		

主要文献

- 熊谷 俊一，西村 邦彦，林 伸英：臨床病理，52(10)：836-843，2004.
- 山中 寿：日本臨牀，60(12)：2325-2330，2002.
- 社内資料

本製品の使用上又は取扱以上の注意については、添付文書及び使用説明書をご参照ください。

マトリックスメタロプロテイナーゼ-3キット LZテスト‘栄研’MMP-3



特徴

- 本法は、モノクローナル抗体を用いたラテックス凝集免疫比濁法です。
- 各種自動分析装置への適応が可能です。
- 試薬安定性が良好で、精度良い測定が可能です。
- 測定レンジが広く、日常検査に適した試薬です。
- 従来法との相関が良好です。
- 精度管理用コントロールを液状品で用意しています。

はじめに

MMP-3(matrix metalloproteinase-3)はIL-1などの刺激により、滑膜細胞や軟骨細胞から分泌される蛋白分解酵素です。臨床的には、プロテオグリカンを分解して軟骨破壊を起こすとともに、他の蛋白分解酵素を活性化させるなど、関節破壊に深く関与することが知られています¹⁾。MMP-3は関節リウマチの病態に最も良く関連する蛋白分解酵素であるとされ、疾患活動性の評価や予後予測、治療効果の指標として有用で、関節リウマチの病態把握に広く用いられています²⁾。LZテスト「栄研」MMP-3は、各種自動分析装置に適用可能なラテックス凝集免疫比濁法の試薬です。幅広い測定レンジで正確かつ精密な測定ができるため、日常検査での使用に適しています。

測定原理

本製品は、ラテックス凝集反応を応用し、自動分析装置に適用した光学的測定法です。ラテックス粒子表面に抗ヒトMMP-3マウスモノクローナル抗体を結合させたラテックス試液と検体中のMMP-3が反応し、ラテックス粒子は凝集します。この反応を所定の波長における濁度変化としてとらえると、その変化量は検体中のMMP-3濃度に比例して増加します。LZテスト「栄研」MMP-3は、既知濃度のキャリブプレートにより検量線を作成し、検体中のMMP-3濃度を求めます。

使用目的

血清又は血漿中のマトリックスメタロプロテイナーゼ-3(MMP-3)の測定

測定範囲

10.0 ~ 1,200.0 ng/mL(6ポイントによる多点検量線測定)

基礎データ

測定機種：日立7170S形自動分析装置

◆ 同時再現性

	単位：ng/mL	
	試料1	試料2
n	20	20
Mean	96.28	291.63
S.D.	1.31	2.40
C.V.(%)	1.36	0.82
Max.	97.7	295.1
Min.	92.9	286.9
Range	4.8	8.2

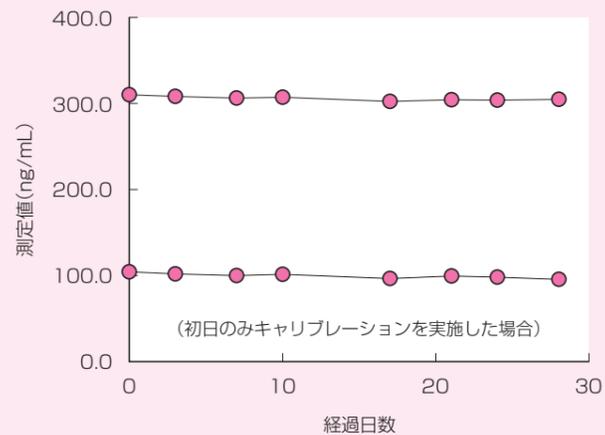
◆ 妨害物質

下記濃度まで測定への影響は認められませんでした。

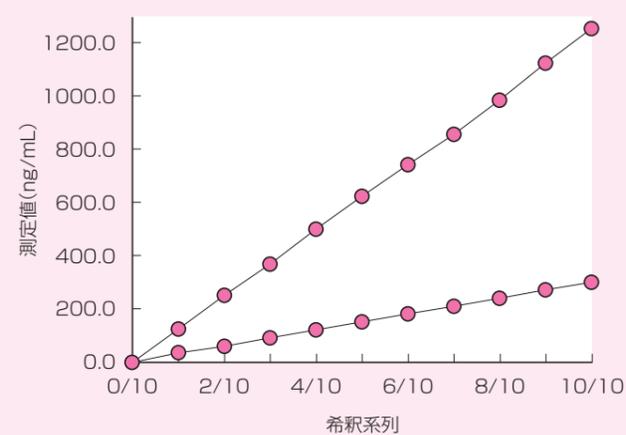
抱合型ビリルビン	20 mg/dL
非抱合型ビリルビン	20 mg/dL
ヘモグロビン	500 mg/dL
乳ビ(ホルマジン濁度)	2,000 度
リウマチ因子	500 IU/mL

※抗凝固剤の影響について
クエン酸ナトリウム(1,000mg/dL)、ヘパリンナトリウム(20mg/dL)については測定値への影響は認められませんでした。EDTA・2Naについては測定値が低値となる影響が認められています。

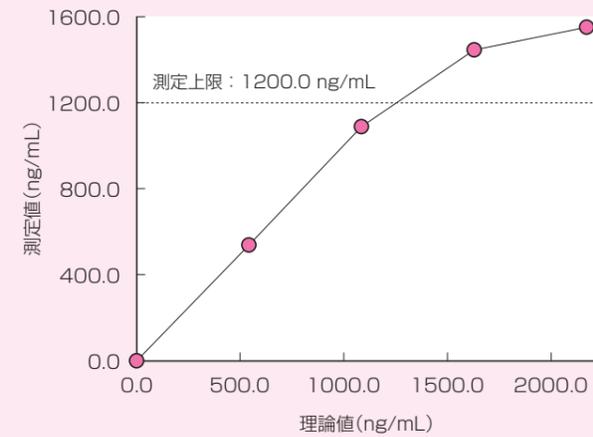
◆ 試薬安定性(装置内保存)



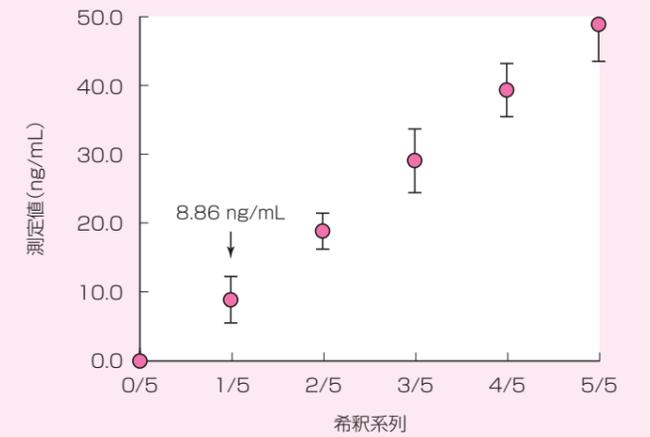
◆ 希釈直線性



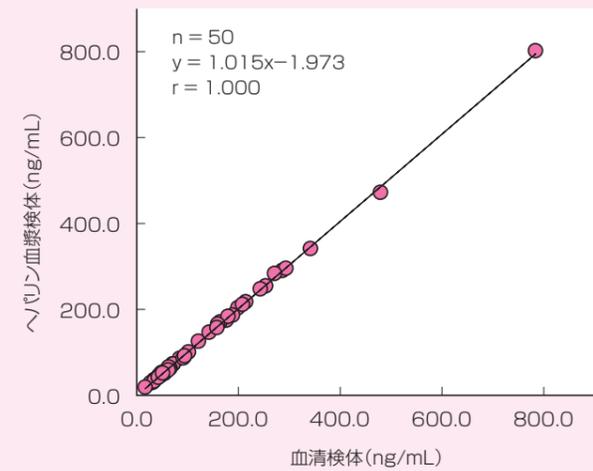
◆ プロゾーン



◆ 検出限界(2.6SD法)



◆ 血清検体と血漿検体の相関



◆ 参考基準範囲³⁾

男性：35.2 ~ 123.8 ng/mL
女性：16.1 ~ 56.8 ng/mL

◆ 他法との相関

